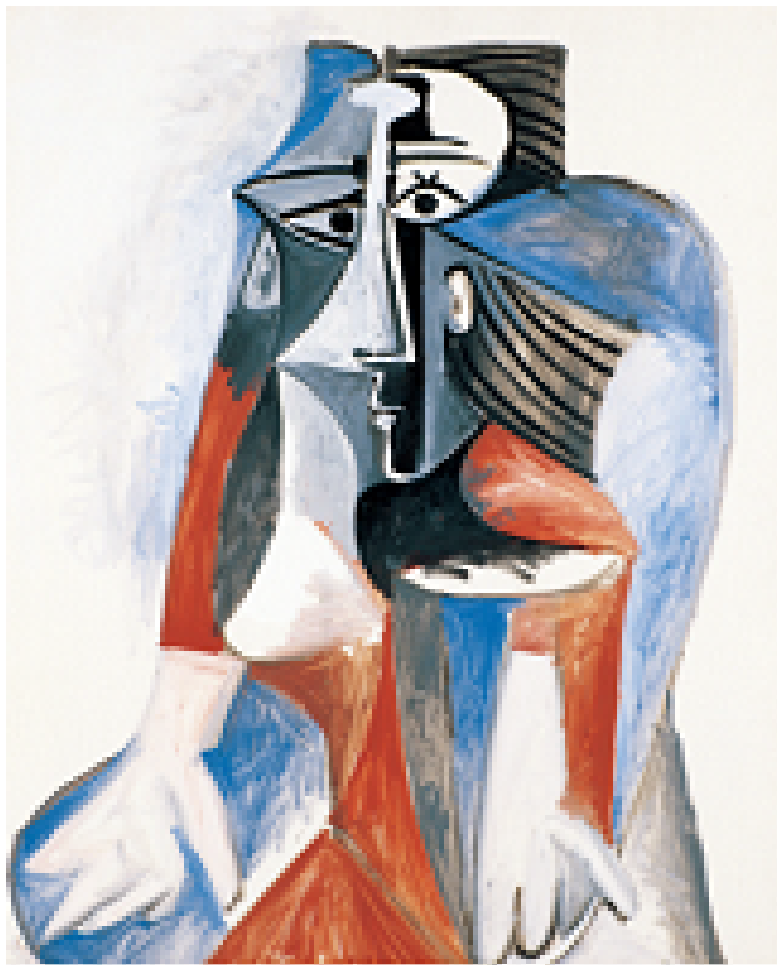


TAD Letter | 11



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

TADのベスト版 コレクション+ あなたならどう見る？

2020年9月19日（土）～11月3日（火・祝）



ポスター Design : 三木 健

当館は、前身となる富山県立近代美術館時代より、20世紀美術の優品を数多く収集し、コレクションの充実ぶりは全国的に知られています。数々の収蔵作家のなかでも、パブロ・ピカソは最もよく知られた画家でしょう。当館は、ピカソの絵画作品4点、版画作品3点を収蔵しています。絵画作品の数は公立美術館としては突出しており、ピカソの画風の変遷を辿ることが出来ます。2017年の移転新築以降、当館はそれまでの「20世紀美術の流れ」という時代順の展示を見直し、自由なテーマを設けて収蔵作品を紹介してきましたが、約16,500点（ポスターコレクション約14,000点含む）ある作品の内、ご覧いただけた作品はそのごく一部でした。開館3年目を迎えた本展では、当館蔵のピカソ作品を全点同時展示する他、当館を代表する収蔵品を中心に、展示する機会の少ない作品も含めて、過去最大の規模で収蔵作品をご紹介します。また本展では、異なる分野で活躍する方々とコラボレーションを行う展示コーナーを設置します。コラボレーションをお願いするのは、アーティストの開発好明氏、アートテラーのとに〜氏、美術批評家の林道郎氏、作家の山内マリコ氏の4名です。美術と様々な関わり方をされる4名の視点を通して、作品の新たな見方・魅力をお楽しみください。

お知らせ

今後の展覧会スケジュールについて

新型コロナウイルス感染症拡大のため、展覧会のスケジュールが変更となりました。皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

※2021年2月以降の企画展については、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

【延期】

国際工芸アワードとやま2020

詳細は決まり次第ホームページ等でお知らせします。

【開催】

富野由悠季の世界

会期：2020年11月28日（土）～2021年1月24日（日）



コラボレーションゲスト紹介

ゲスト紹介

開発好明 [アーティスト]

多摩美術大学非常勤講師。2006年に「ベルリン-東京、東京-ベルリン」(ニューナショナルギャラリー、ベルリン)、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、2019年に「あそびのじかん」(東京都現代美術館)に出品。2016年に個展「開発好明：中二病」(市原湖畔美術館)開催。観客参加型の作品を多く制作している。



とに〜 [アートテラー]

美術の魅力をわかりやすく、かつ面白く伝える日本でただ一人の「アートテラー」。芸人時代に培った話芸と笑いのセンスで独自のトークガイドを各地、各美術館で実施している。雑誌、ラジオ、テレビなどメディア出演多数。



©Shingo Kanagawa

林 道郎 [美術批評家]

上智大学国際教養学部教授。主な著書に、『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』(ART TRACE 2003-09年)、『死者とともに生きるーボードリヤール「象徴交換と死」を読み直す』(現代書館 2015年)、『静かに狂う眼差しー現代美術覚書』(水声社 2017年)。

山内マリコ [作家]

『ここは退屈迎えに来て』(幻冬舎 2012年)で作家デビュー。主な著書に、『アズミ・ハルコは行方不明』(幻冬舎 2013年)、『あのこは貴族』(集英社 2016年)。近著に『山内マリコの美術館は一人で行く派展 ART COLUMN EXHIBITION 2013-2019』(講談社 2020年)。FMとやま「山内マリコのオケケイトーク」ではパーソナリティを務める。



開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日

会場 富山県美術館2階 展示室1、2、3、4

主催 富山県美術館、富山新聞社、北日本放送

観覧料 一般 900 (700) 円、大学生 450 (350) 円、一般前売り700円

※ () 内は20名以上の団体料金

開催概要

【中止】

石岡 瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか

【中止】

START☆みんなのミュージアム2021

【全館休館日の変更】

全館休館は右記に変更となりました。2021年1月29日(金)-2月19日(金)

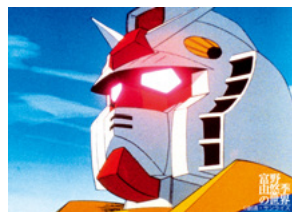
今後のスケジュール

富野由悠季の世界

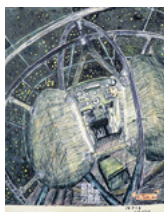
2020年11月28日(土)～2021年1月24日(日)



「富野由悠季の世界」ポスター(全巡回会場共通デザイン)
 ©手塚プロダクション・東北新社 ©東北新社 ©サンライズ ©創通・サンライズ
 ©サンライズ・バンダイビジュアル・バンダイチャンネル
 ©SUNRISE・BV・WOWOW ©オフィス アイ



「機動戦士ガンダム」
 ©創通・サンライズ



「宇宙船コックピット」
 (富野由悠季 1954年)
 ©オフィス アイ

アニメーション映画監督、脚本家、作詞家として様々な作品に係った富野由悠季(1941年、神奈川県生まれ)の、半世紀以上にわたる仕事を回顧する世界初の展覧会を開催します。この展覧会では、「アニメーションは映画だ」という思いを軸に展開されてきた作品と制作のあゆみを、6つの章を通して紹介します。少年時代の創作、TVアニメーションの演出家としてデビューを果たした『鉄腕アトム』など初期作品から、昨年40周年を迎えた代表作『機動戦士ガンダム』シリーズや最新の監督作品である『ガンダム Gのレコンギスタ』まで、直筆の絵コンテ、セル画、仕事を共にしてきたクリエイターたちのデザイン画、資料など計約3,000点を通して、その仕事の全容に迫ります。

この展覧会は、富野監督をはじめ、各作品のプロダクションや制作に携わった方々などのご協力のもと、当館をふくむ全国6会場の美術館企画によるものです。当館としては初めてのアニメーション映画の企画展となります。

開催概要

開館時間	9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日、祝日の翌日、年末年始
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催	「富野由悠季の世界」富山展実行委員会 (富山県美術館、北日本新聞社)
協力	サンライズ、東北新社、手塚プロダクション、 日本アニメーション、オフィス アイ
企画協力	神戸新聞社
観覧料	一般 1,400(1,200)円、大学生 1,000(350)円、 高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金 ※団体取り扱いについては後日お知らせいたします。

関連イベント

国内外における新型コロナウイルス感染症の状況を受け、イベント等の最新情報は、下記のウェブサイト等を通してお知らせします。
 ○「富野由悠季の世界」公式サイト [https:// www.tomino-exhibition.com](https://www.tomino-exhibition.com)
 ○「富野由悠季の世界」公式ツイッター @tominoexhibi1
 富山県美術館公式サイト <https://tad-toyama.jp>

※新型コロナウイルス感染症対策として入場制限等を設ける可能性があります。
 詳細は後日、ホームページにてお知らせいたします。

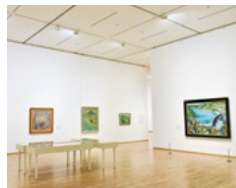
コレクション展Ⅱ期

2020年7月2日（木）～9月8日（火）

今回のコレクション展では、より皆様に美術館を楽しんでいただけるよう展示を拡充、2つの展示室にて開催しています。

展示室1では、4つの小テーマによって、20世紀美術のハイライトをご紹介します。【人物表現】や【部屋】といった、多くの美術作品にとって主要なテーマの他、作品の迫力をより一層感じられる【動き】や【行為・痕跡】を取りあげています。

展示室2では、「ディスカバー・トヤマ：画家と旅する富山県」と題した特集展示を行います。昭和・平成の画壇を代表する画家たちが富山に取材・制作した「富山を描く」シリーズより、立山連峰や富山湾の美しい風景、伝統的な祭りの様子など、魅力ある富山の風土を描いた作品をご紹介します。



展示室2「ディスカバー・トヤマ：画家と旅する富山県」展示風景

デザイン・コレクション展Ⅱ期

2020年6月25日（木）～9月15日（火）

ポスターと椅子のコレクションを中心とした展示室5では、「ヒロシマ・アビールズを中心とした平和ポスター」を特集しています。ヒロシマ・アビールズは、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）広島地区と一般財団法人広島国際文化財団、公益財団法人ヒロシマ平和創造基金と共同で1983年から（途中休止）毎年1名のデザイナーを選出し、平和を訴えるポスターを制作しています。その中から2020年までに発表されたポスターを展示します。

展示室6では、瀧口修造コレクション「瀧口修造とマン・レイ シュルレアリスムへの扉」およびシモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション「ゴールドベルクとクレイ周辺の画家たち」をテーマに、それぞれのコレクションを紹介します。



展示室5「ヒロシマ・アビールズを中心とした平和ポスター」展示風景

開館時間 9:30～18:00（入館は17:30まで）
 休館日 毎週水曜日（9月2日（水）は臨時開館）
 会場 コレクション展：富山県美術館2階 展示室1、2
 デザイン・コレクション展：富山県美術館3階 展示室5、6
 観覧料 一般 300(240)円
 ※ コレクション展、デザイン・コレクション展共通
 ※（ ）内は20名以上の団体料金

開催概要

令和元年度、新収蔵作品について

今春、当館のコレクションに新しい作品が加わりました。なかでも、近年の企画展を機に加わった作品は、会場でご覧になった方も多いかと思います。

一昨年の「千住博展」からは作者寄贈により《断崖図 #22》(2016年)、昨年開催の「加納光於展」からは油彩《まなざし一疼く飛沫を辿れ》24-Vと、作家寄贈により瀧口修造との詩画集『掌中破片』(1978年)の版画作品の原画が、今春開催の「森村泰昌のあそぶ美術史」からは《ほんきであそぶとせいかいはかわる(ミロ)》(2020年)が収蔵作品に加わりました。また、開催中のコレクション展「ディスカバー・トヤマ：画家と旅する富山県」において、中島千波氏の《立山》(1982年)と共に展示中の室堂やみくりが池のスケッチは、所蔵作品《形態・身》(1980年)などの制作時のデッサンと併せて中島氏より寄贈を受けた作品です。

そして、今年100才を迎える画家、野見山暁治氏からは、初期から近作までの絵画5点が寄贈されました。特に《屋

内の女》(1950年)は、瀧口修造が参画した「タケミヤ画廊」での個展出品作という、瀧口ゆかりとも呼べる貴重な作品です。

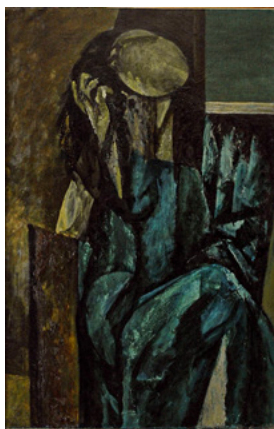
また、所蔵家の方からの寄贈による、戦後日本で巧みな銅版画表現を展開した菅野陽と、独特の叙情性を持つ北川健次の銅版画作品は、既存のコレクションとともに版画表現の多様性を伝えてくれるでしょう。

椅子の新収蔵3点は、現在、3階デザイン・コレクションでご覧いただけます。ヴラチスラフ・ホフマンのデザインによる椅子は、昨年の「チェコ・デザイン100年の旅」出品作の復刻であり、チェコでは建築にまで展開されたキュビスムの広がりを伝えています。また、チャールズ&レイ・イームズの子供向けの椅子、画家の岡本太郎のデザインによるスツールもユニークな造形が目ひきます。

当館の充実したコレクションとともに、新収蔵作品もこれから順次紹介していきたいと思います。



加納光於
《まなざし一疼く飛沫を辿れ》24-V
(1989年)、購入



野見山暁治
《屋内の女》
(1950年)、作者寄贈



ヴラチスラフ・ホフマン
[椅子(彫刻家ヨゼフ・マジャツカ邸食堂用)]
(1911-12年デザイン)、購入

富山県美術館では、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、当面の間アトリエの利用を中止しています。そこで、ご家庭でも創作活動を楽しんでほしいとの想いから、動画配信プログラム「やってみよう!どこでもオープンラボ」を企画しました。これまで当館で実施してきた、いつでも誰でもアトリエでできる創作活動プログラム「オープンラボ」の中から、身近にある材料や道具で取り組めるものを選び、ご家庭でも気軽にチャレンジできるようまとめた全3回の動画です。

やってみよう! どこでもオープンラボ

第01回

タングラムで動物あそび

2020年4月29日(水・祝)から配信

「タングラム」とは、四角形や三角形などの図形を組み合わせて絵柄をつくるシルエットパズルです。その起源は古く中国とされ、今では世界中で親しまれており、メジャーな知育玩具の一つです。パズルのピースは、正方形を7つに切り分けてつくります。それらを並べて動物や文字などさまざまなもののシルエットを作って遊ぶことができます。(動画約3分)



第02回

ニコニコポンポンをつくろう

2020年5月26日(火)から配信

毛糸を巻いてつくる丸いポンポンに、目や足をつけてオリジナルのマスコットをつくります。できた作品を吊り下げて飾ることもできます。※グラフィック・デザイナーの永井一正さんのポスターシリーズ「LIFE」2017に出てくる動物をモチーフにしています。(動画約7分)



第03回

マテリアるんるんスター☆シ

2020年6月26日(金)から配信

6枚の色紙を使い、色紙から立体的なオーナメントをつくります。紙の素材感を楽しみながら子どもから大人まで満足できる、おりがみ工作です。(動画約5分)



対 象 [すべての回] 小学生以上

(小学生未満は、保護者の方との制作を推奨)

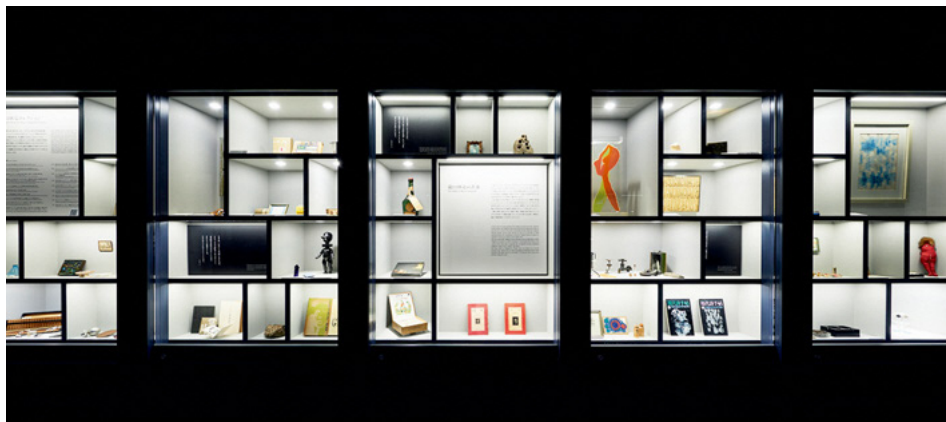
配 信 先 当館ホームページ、youtube、facebook、Twitter

動画をみてつくった作品は、「#どこでもオープンラボ」をつけてSNS等でシェアしてくださいね。
みなさんの投稿をお待ちしています!

● ホームページでは、今までのプログラム実施報告をご覧いただけます。

https://tad-toyama.jp/education_report

瀧口修造コレクション



「瀧口修造コレクションは新しい富山県美術館の心臓とでもいうべき存在。それにふさわしい展示室にしなければいけない。」富山県美術館の設計者、内藤廣さんの言葉である。

南側の側廊には2階から3階を経てオノマトペの屋上に通じる階段がある。その階段の途中、2階と3階の間に休息スペースがあり、その真上に赤褐色の金属板を貼り合わせた大きな四角の立体物が突き出ている。美術館全体を支配しているホワイト調の中にあって異質で、特別な存在感を放っている。この内部が瀧口修造コレクション展示室。内藤さんの言葉を具現した構造体である。

瀧口修造コレクションとは、シュルレアリスムの詩人で美術批評家であった彼の書斎にあったモノの集合体である。その構成は、美術作品もあれば、玩具や、凝った作りの雑貨品、外国の土産、石や貝殻などの拾得物などなど、何の脈絡も見出せないモノの渾然一体とした塊のように見える。が、持ち主であった瀧口の言葉を借りると、「…私独自のもので結ばれている記念品の貼りまぜである。…ごっちゃなものがどんな次元で結合し、交錯しているかは私だけが知っている。」

（「白紙の周辺」；初出『みづゑ』1963年3月号）

このコレクションの本質は、社会の価値観をベースにせず、別の価値体系を作り出している点にある。瀧口にとっては、美術作品も貝殻も石ころも、書斎の中の全てのモノが等価であった。だから瀧口修造コレクションの展示室は、美術作品のみを飾る部屋ではない。

書斎の再現とはいかないが、その雰囲気的一端ぐらいは醸し出したいところだ。書斎と言えば、主役は書物。だが、書斎を圧倒的な物量で占めていた書籍は多摩美術大学に保管されている。往時の書斎の写真をみると、本を収めた本棚の手前の至る所にモノが置かれている。書物のない本棚をイメージしたのが瀧口修造コレクション展示室である。

展示室の棚に整然と並んだ様は、雑然とした書斎の雰囲気を漂わせているとは言い難いが、じっくりと場の雰囲気を楽しんでいただきたい。耳を澄ますと、モノのささやき声が聞こえてくるかもしれない。

（富山県美術館副館長 杉野 秀樹）

富山県美術館（TAD）

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20（富岩運河環境公園内）

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>